

41:1 それから二年の後、パロは夢を見た。見ると、彼はナイルのほとりに立っていた。 41:2 ナイルから、つやつやした、肉づきの良い七頭の雌牛が上がって来て、葦の中で草をはんでいた。 41:3 するとまた、そのあとを追ってほかの醜いやせ細った七頭の雌牛がナイルから上がって来て、その川岸にいる雌牛のそばに立った。 41:4 そして醜いやせ細った雌牛が、つやつやした、よく肥えた七頭の雌牛を食い尽くした。そのとき、パロは目がさめた。 41:5 それから、彼はまた眠って、再び夢を見た。見ると、肥えた良い七つの穂が、一本の茎に出て来た。 41:6 すると、すぐそのあとから、東風に焼けた、しなびた七つの穂が出て来た。 41:7 そして、しなびた穂が、あの肥えて豊かな七つの穂をのみこんでしまった。そのとき、パロは目がさめた。それは夢だった。 41:8 朝になって、パロは心が騒ぐので、人をやってエジプトのすべての呪法師とすべての知恵のある者たちを呼び寄せた。パロは彼らに夢のことを話したが、それをパロに解き明かすことのできる者はいなかった。 41:9 そのとき、献酌官長がパロに告げて言った。「私はきょう、私のあやまちを申し上げなければなりません。 41:10 かつて、パロがしもべらを怒って、私と調理官長とを侍従長の家に拘留なさいました。 41:11 そのとき、私と彼は同じ夜に夢を見ましたが、その夢はおのおの意味のある夢でした。 41:12 そこには、私たちといっしょに、侍従長のしもべでヘブル人の若者がいました。それで彼に話しましたところ、彼は私たちの夢を解き明かし、それぞれの夢にしたがって、解き明かしてくれました。 41:13 そして、彼が私たちに解き明かしたとおりになり、パロは私をもとの地位に戻され、彼を木につるされました。」 41:14 そこで、パロは使いをやってヨセフを呼び寄せたので、人々は急いで彼を地下牢から連れ出した。彼はひげをそり、着物を着替えてから、パロの前に出た。 41:15 パロはヨセフに言った。「私は夢を見たが、それを解き明かす者がいない。あなたについて言われていることを聞いた。あなたは夢を聞いて、それを解き明かすということだが。」 41:16 ヨセフはパロに答えて言った。「私ではありません。神がパロの繁栄を知らせてくださるのです。」 41:17 それでパロはヨセフに話した。「夢の中で、私はナイルの岸に立っていた。 41:18 見ると、ナイルから、肉づきが良くて、つやつやした七頭の雌牛が上がって来て、葦の中で草をはんでいた。 41:19 すると、そのあとから、弱々しい、非常に醜い、やせ細ったほかの七頭の雌牛が上がって来た。私はこのように醜いのをエジプト全土にまだ見たことがない。 41:20 そして、このやせた醜い雌牛が、先の肥えた七頭の雌牛を食い尽くした。 41:21 ところが、彼らを腹に入れても、腹に入ったのがわからないほどその姿は初めと同じように醜かった。そのとき、私は目がさめた。 41:22 ついで、夢の中で私は見た。見ると、一本の茎によく実った七つの穂が出て来た。 41:23 すると、そのあとから東風に焼けた、しなびた貧弱な七つの穂が出て来た。 41:24 そのしなびた穂が、あの七つの良い穂をのみこんでしまった。そこで私は呪法師に話したが、だれも私に説明できる者はいなかった。」 41:25 ヨセフはパロに言った。「パロの夢は一つです。神がなさろうとすることをパロに示されたのです。 41:26 七頭のりっぱな雌牛は七年のことで、七つのりっぱな穂も七年のことで、それは一つの夢なのです。 41:27 そのあとから上がって来た七頭のやせた醜い雌牛は七年のことで、東風に焼けたしなびた七つの穂もそうです。それはききんの七年です。 41:28 これは、私がパロに申し上げたとおり、神がなさろうとすることをパロに示されたのです。 41:29 今すぐ、エジプト全土に七年間の大豊作が訪れます。 41:30 それから、そのあと、七年間のききんが起り、エジプトの地の豊作はみな忘れられます。ききんが地を荒れ果てさせ、 41:31 この地の豊作は後に来るききんのため、跡もわからなくなります。そのききんは、非常にきびしいからです。 41:32 夢が二度パロにくり返されたのは、このことが神によって定められ、神がすみやかにこれをなさるからです。 41:33 それゆえ、今、パロは、さとくて知恵のある人を見つけ、その者をエジプトの国の上に置かれますように。 41:34 パロは、国中に監督官を任命するよう行動を起こされ、豊作の七年間に、エジプトの地に、備えをなさいますように。 41:35 彼らにこれからの豊作の年のすべての食糧を集めさせ、パロの権威のもとに、町々に穀物をたくわえ、保管させるためです。 41:36 その食糧は、エジプトの国に起こる七年のききんのための、国のたくわえとなさいますように。この地がききんで滅びないためです。」 41:37 このことは、パロとすべての家臣たちの心になかった。 41:38 そこでパロは家臣たちに言った。「神の霊の宿っているこのような人を、ほかに見つけることができようか。」 41:39 パロはヨセフに言った。「神がこれらすべてのことをあなたに知らされたのであれば、あなたのように、さとくて知恵のある者はほかにいない。 41:40 あなたは私の家を治めてくれ。私の民はみな、あなたの命令に従おう。私があなたにまかしているのは

王位だけだ。」41:41 パロはなおヨセフに言った。「さあ、私はあなたにエジプト全土を支配させよう。」41:42 そこで、パロは自分の指輪を手からはずして、それをヨセフの手にはめ、亜麻布の衣服を着せ、その首に金の首飾りを掛けた。41:43 そして、自分の第二の車に彼を乗せた。そこで人々は彼の前で「ひざまずけ」と叫んだ。こうして彼にエジプト全土を支配させた。41:44 パロはヨセフに言った。「私はパロだ。しかし、あなたの許しなくしては、エジプト中で、だれも手足を上げることもできない。」41:45 パロはヨセフにツアフェナテ・パネアハという名を与え、オンの祭司ポティ・フェラの娘アセナテを彼の妻にした。こうしてヨセフはエジプトの地に知れ渡った。41:46 ——ヨセフがエジプトの王パロに仕えるようになったときは三十歳であった——ヨセフはパロの前を去ってエジプト全土を巡り歩いた。41:47 さて、豊作の七年間に地は豊かに生産した。41:48 そこで、ヨセフはエジプトの地に産した七年間の食糧をことごとく集め、その食糧を町々にたくわえた。すなわち、町の周囲にある畑の食糧をおのおのその町の中にたくわえた。41:49 ヨセフは穀物を海の砂のように非常に多くたくわえ、量りきれなくなったので、ついに量ることをやめた。41:50 きぎんの年の来る前に、ヨセフにふたりの子どもが生まれた。これらはオンの祭司ポティ・フェラの娘アセナテが産んだのである。41:51 ヨセフは長子をマナセと名づけた。「神が私のすべての労苦と私の父の全家とを忘れさせた」からである。41:52 また、二番目の子をエフライムと名づけた。「神が私の苦しみの地で私を実り多い者とされた」からである。41:53 エジプトの地にあった豊作の七年が終わると、41:54 ヨセフの言ったとおり、七年のきぎんが来始めた。そのきぎんはすべての国に臨んだが、エジプト全土には食物があった。41:55 やがて、エジプト全土が飢えると、その民はパロに食物を求めて叫んだ。そこでパロは全エジプトに言った。「ヨセフのもとに行き、彼の言うとおりにせよ。」41:56 きぎんは全世界に及んだ。きぎんがエジプトの国でひどくなったとき、ヨセフはすべての穀物倉をあけて、エジプトに売った。41:57 また、きぎんが全世界にひどくなったので、世界中が穀物を買うために、エジプトのヨセフのところに来た。

はじめに

創世記 41 : 1 は、ヨセフが牢獄に丸 2 年間いたと語ります。

ヨセフは 700 日 700 夜を超える日々ずっと、牢獄から出してもらえるのを待っていたことでしょう。誰にとっても待つというのはつらいものです。

私たちの生活は、なんでもスピードがもてはやされます。携帯電話、インターネット、メール、フェイスブック、フェイスタイムなど。またネットバンキングを使えば銀行口座から世界中どこにでも送金できます。

このような便利な機器に囲まれた現代人は、なんでもすぐに結果が出ることを期待します。けれども、私たちの求めるタイミングで物事が進まないときこそ、忍耐を学べる時です。

ヤコブ 1 : 3-4

1:3 信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。1:4 その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。

ヤコブ 1 : 3-4 は、信仰が試されると忍耐が生じると語ります。

ヤコブは、忍耐を完全に働かせなければならないと語ります。そうすれば、私たちは欠けたところのない成長した完全な者となると言います。

この個所から、忍耐は人生の試練を経て身につくものであることがわかります。また、忍耐を完全に働かせれば、私たちは完全な者とされ、欲がなくなることもわかります。

ここで、ヤコブ 1 : 4 に登場するギリシャ語の単語を検証しましょう。

原語のギリシャ語の意味を理解すれば、霊的な意味合いをしっかりと理解できるからです。

まず、「忍耐」と訳された単語「ヒュボモネ」です。

これは、「~のもとに耐える」という意味です。

とても大きな荷を負った人がイメージできます。

ヤコブはここで、重い荷を背負うときに止まったままでいてはならないと教えます。

私たちは、重荷を負ったままで前進しなければなりません。

クリスチャンは重荷を言い訳にして立ち止まらず、重荷を負ったまま神の導かれる方向へと進んでいかなければなりません。
ヨセフの場合、神は牢獄の中で道を開いてくださいました。それは、牢獄を出る道ではなく、他の囚人たちの世話をすることで神に仕えるという道でした。

神が望まれる忍耐とは何か、3種類の船を例に見てみましょう。

手漕ぎボート、帆船、そして蒸気船です。これらはどれも大きな荷物を運べるようにできています。しかし、手漕ぎボートは運べる重量が一番小さいです。

漕ぐ人の力だけに頼っているからです。

手漕ぎボートでも、筋力に自信のある力持ちの人が漕げば重いものも運べるでしょう。

帆船は、風を頼りにするので、手漕ぎボートよりはたくさんの荷物を運べます。

けれども、船が風にあちこち振り回されることもあり、目的地に容易にたどり着けないこともあります。

いずれにせよ、船を操縦している人の力ではなく、風力を利用しているのがポイントです。

蒸気船は、人の力も風力も要りません。

その動力は船内のエンジンです。

船内の動力が船を目的地に運んでくれます。操縦している人間の強さや天候などの環境に左右されません。

これこそ、イエス・キリストが私たちに望まれることだとヤコブは語ります。

イエスが望んでおられるのは、信徒たちが重荷に押しつぶされることなく人生の重荷を負う力を養うことです。

イエスが私たちに重荷を与えられるのは、私たちをつぶすためではありません。むしろ、人生の旅路をスムーズに進んでいけるよう助けるためです。

海を恐れる人たちや水夫たちは、積荷のない状態の船に乗るのを恐れます。

積荷のない船はよく揺れるので、船酔いもしやすいのですが、積荷があると、揺れもましになります。それが、クリスチャンの人生における試練の役割です。

人生の荒波が押し寄せせる中でも、試練を受けることで安定した歩みができるようになり、天国という終着点に着実に進めるよう助けてくれます。

ヨセフは、牢獄の中であらゆることを学びました。それは、牢獄のつらい時期を耐えたのと同じ落ち着いた姿勢で、人生の成功や神の祝福も受け取れるようになるためでした。

つらい時期も大きな祝福の時期も同じようにしっかり受け止められるようになれば、キリストにあって成長していることがわかります。

私たちが自らの人生を完全に神のために聖別し、すべてを神の御手にささげるなら、神がすべてを治めてくださるという完全な平安をいただくことができます。

神が私たちの人生に何をなさっておられるのか、どこに導かれるのか、そのときはわからなくても、どんな状況でも神を信頼することができます。

ヨセフは、神が将来に備えて訓練を与えておられることを悟れる強い信仰を持っていたようです。

皆さんも、今何かを待っている時かもしれません。

神が何らかのかたちで働いてくださるのを待っているのかもしれない。

それは、転職先、配偶者、昇進、経済的な問題の解決など様々でしょう。

待っている時をどうか最大限に活かしてください。祝福の時に備えて、神があなたを成長させようとしておられるのですから。

それでは、41章の本題に入りましょう。そこには、パロが夢を見たこととヨセフが牢獄から出されたことが記されています。

パロは夢を見たので、エジプト中の呪法師と知恵のある者を呼び寄せましたが、誰もその夢を解き明かせる人はいませんでした。(8節)

そのとき、献酌官長はふと牢獄でいっしょだったヨセフのことを思い出しました。

そして、パロにヨセフの夢の解き明かしが両方とも実現したことを話しました。

ヨセフは牢獄からパロに呼び出されました。

16節で、ヨセフはまずパロに、夢を解き明かすのは神だと言いました。

ヨセフは神を信じていたので、神がパロに答えを与えてくださるとパロに伝えました。

ヨセフは信仰によって大きく踏み出しました。

夢の解き明かしについて囚人に神のことを伝えたのも信仰のある行動でしたが、エジプトの最高権威である人物に証するのはさらにリスクの高い行動です。

ヨセフは、ヘブル人の神の偉大さをパロに伝えたくて、パロの夢を解き明かしました。

その解き明かしの内容は、7年豊作が続き、その後7年飢きんが続くというものでした。

そして、33-36節で、ヨセフはパロにいくつか助言をします。

その内容は、判断力のある賢い人を任命して作物の過剰分を管理させ、豊作の年にできた穀物を備蓄して飢きんの年に備えるようにというものでした。

次のパロの言葉を予想してみると、「夢の解き明かしと助言をありがとう。では、牢獄に戻りなさい。

釈放されるまで十分に食べ物が与えられるように言い渡しておこう」でしょうか。

通常なら、パロはおそらくそう言うでしょう。

けれども、これは通常の状態ではありませんでした。神がすべての手引きをなさっていたからです。

神はこのふたりのうちに、そしてふたりをとおして、ご自身の目的を果たそうとしておられました。

ヨセフもエジプトの王パロも神の御手の中で動かされていました。

パロは以後14年間のエジプトを管理するのに適した人材はヨセフだと考えました。

パロがこのような決断をするのはなかなか信じがたいことです。ヘブル人の奴隷を牢獄から出して、エジプト全土で二番目の権力者として任命したのです。

45-52節には、パロはエジプトでの最高職だけでなく、妻もヨセフに与え、ヨセフにふたりの子が生まれたとあります。

長男は「マナセ」、次男は「エフライム」と名付けられました。

ふたりの名前には意味があります。その意味は今日の個所に記されています。

ヘブル語の「マナセ」は「忘れさせる」という意味で、「エフライム」は「実り多い」という意味です。

ふたりの息子の名をとおして、ヨセフは神のすばらしさを証しました。

47-57節から、ヨセフによるパロの夢の解き明かしは100%正しかったことがわかります。

ヨセフがパロに話したとおりのことが起こりました。

7年間豊作が続きました。

そして54-57節には、飢きんの年の始まりが伝えられています。

世界中で飢きんが起り、エジプトのヨセフだけが穀物を買うことのできる頼りとなりました。

ヨセフはエジプトだけでなく、当時の周辺諸国すべてに権力を持つようになりました。

この41章から、霊的な教えと実生活に応用できる教えをいくつか挙げていきましょう。

1. 聖書の神だけがヨセフの人生でなされたようなすばらしいことをなすことができる。だからこそ、私たちの人生もこの神を信頼して託せる。

聖書は、神が全知全能で遍在されるお方だと教えます。ですから、神はご自身のご計画を実行するために誰でも用いることができになります。

この事実によって、クリスチャンはどんな状況でも確信をもって神を信頼できます。

神は、私たちの人生のすべての局面で、すべてをわかって働かれます。

平安は、私たちの人生における神の主権とみこころを受け入れて初めて与えられます。

ここで、英国の教会にいた婦人からもらった詩を皆さんに分かち合いたいと思います。

この詩をもらった当時、私の人生に起こったできごとについて神がそれをお許しになったとなかなか受け入れられずにいました。
皆さんにも今後役に立つかもしれませんので、聖書にはさんでおいてください。

受容のうちに平安あり
我が心よ 静まれ
思い悩みのざわめきよ やめ
神のみこころを受け入れよ
この試練が我が望みでならずとも
神の選びゆえに 喜べ

神のご計画に
我が心を悲しませるものなし
神の選ばれしものならば
喜び受け取れ
試練から美を生みだせ
王なるお方の栄光のため

ため息もつづやきも捨て
神の愛と恵みを歌え
こうしてさらに進みゆく
豊かな場所へと
恐れから 神は解き放たれん
受容のうちに平安あり

(ハンナ・ハーナード)

2. ヨセフは、この世の知恵よりも神のみことばを重視すると心に決めていた。

現代人は、神のみことばの知恵を認めようとしません。
多くの人々は、聖書の神の助けを得ずに、自分の思ったように生き、自分ですべて決めることを好みます。
過去 2000 年、人間の知恵はそれほど深まってはいませんし、多くの人間の知恵は間違っています。
ヨブ記には、過去の科学者たちが正しく理解できなかったことの多くを示しています。
そのひとつを挙げましょう。
ヨブ記は紀元前 2500 年ごろに記されたことを覚えておいてください。

16-17 世紀にかけて、科学が進歩し、人間は望遠鏡で宇宙を見るようになりました。そして、この世界についてあらゆる仮説が立てられました。
しかし、1946 年になって、宇宙から見た地球の動画を初めて見て、地球が何もない上にあることが科学的に証明されました。

驚くべきことに、その 4000 年以上前に、神はヨブに地球の神秘を明確に語っておられるのです。
ヨブ 26 : 7 には、「地を何もない上に掛けられる。」とあります。
科学がついに、ヨブ記に記された神のみことばが真実であるという事実を認めるまで、この世の知恵は間違っていました。
ヨブ記に記された内容で、神のみことばが正しいことを科学者たちが認めざるを得なくなった事柄がこれ以外にも多くあります。

残念ながら、現代の教会には、神のみことばに答えを求めて従うよりも人間の知恵で問題を解決しようとする教会があります。
私たちに必要な知恵はすべて神のみことばにあります。

医学の分野から例を挙げてみましょう。

医学生が中絶に関するセミナーに参加しました。

講師は、あるケーススタディを取り上げました。

父親が梅毒、母親が肺結核の患者です。

ふたりには4人の子どもがあり、第一子は盲目、第二子は死にました。第三子は耳が聞こえず、第四子は結核患者です。

母親は第五子を妊娠中です。

母親は中絶も視野に入れていました。

講師は参加者に問いかけました。「この母親にあなたならどうアドバイスしますか。」

すると、参加者全員が、この母親に中絶を勧めると答えました。

これに対し、講師は言いました。「おめでとう。皆さんはたった今、ベートーベンを殺しました。」

この医学生たちのひとりがベートーベンの母親の担当医師だったら、あの偉大な作曲家はこの世に生まれなかったのです。

医学生たちが聖書の十戒を読んでさえいれば、人の命を奪うことは決して正しくないとわかったはずです。

神のみことばの知恵に相反するこの世の知恵を採用するのは決して正しくありません。

内容が何であれ、神のみことばは常に知恵を与えてくれます。

3. ヨセフは世界の人々に食物を与えたとき、イエス・キリストをあらかじめ示す予型の役割を果たした。

41:55 やがて、エジプト全土が飢えると、その民はパ口に食物を求めて叫んだ。そこでパ口は全エジプトに言った。「ヨセフのもとに行き、彼の言うとおりにせよ。」

似たような言葉を聞いたことはありませんか。

ヨハネ 2:5 母は手伝いの人たちに言った。「あの方が言われることを、何でもしてあげてください。」

ガリラヤのカナで開かれた婚礼で、イエスの母マリヤは、イエスが問題を解決してくれると信じました。その結果、人々は最高級のぶどう酒をいただきました。

エジプトの飢きんでは、ヨセフのもとに行くのが解決の答えでした。そして、婚礼でぶどう酒がなくなったときは、イエスののもとに行くのが答えでした。

罪が私たちにもたらす霊的な飢えに対する答えは、イエスののもとに行くことです。

イエスはおっしゃいました。「わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、...」(ヨハネ 6:35)

また、「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。」ともおっしゃいました。

(ヨハネ 7:37)

ヨセフは歴史上実在した人物で、世界に食物を与えました。

イエスも実在したお方で、私たちがこのお方を信じ、そのみことばと知恵を信頼するなら、私たちの霊の問題を解決して下さいます。

神の助けを得て、私たちが日常生活から神のみことばに従えますように。そして、神がご自身のみことばを守ってくださると信頼できますように。